

受領 令和5年5月31日 16時39分

通告番号(5)1/2

令和5年5月31日

読谷村議会  
議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員  
城間 真弓 印

## 一般質問通告書

第526回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 村民の声（投書箱含む）に本気で向き合い、透明性のある開かれた村づくりへ。読谷村自治基本条例を最大限に活かし、村民と共に創り上げる社会を。</p> <p>(1) 過去3年間の村民からのご意見や投書箱への相談件数と、その件数に対する行政からの回答件数は。</p> <p>(2) 村民からのご意見をホームページ上で分かりやすい場所に提示し、質問内容と回答を閲覧できるようにして欲しいとの相談があった。行政に対する良いご意見だけでなく、指摘事項や要望においても、自治基本条例の観点からも村政として重要視すべきである。また、その声に真摯に向き合い、透明性を持って可視化することは村民に対する誠意ある対応ではないか。</p>	
<p>2 戦後78年、平和を希求する憲法の基本理念を遵守する読谷村として、村民の「命」「暮らし」「平和」をどう守り抜いていくのか。本村の本気の姿勢を問う。</p> <p>(1) 5月31日の早朝に出されたJアラードについて村民から何らかの相談やご意見等があったか。また、トリイ通信施設基地内においても同じように米軍側が主となってJアラードが発令されたのか。</p> <p>(2) 2021年12月の一般質問において、キャンプ・キンザーの倉庫群の進捗状況を確認した際、文化財調査や、移設される建物や道路等の設計業務がなされているとの答弁でしたが、現在の進捗状況とは。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>(3) 2022 年から 2 年ぶりに米軍側との四者調整会議が再開されたと思いますが、2022 年から 2023 年 5 月までに何回開催されましたか。また主な内容とは。</p> <p>(4) いまだ終わらない辺野古新基地建設の問題に続き、いま沖縄では自衛隊施設が南西諸島に次々に建設され、ミサイル配備や弾薬庫建設など、「抑止力」という名のもとで、戦争に備えた準備が着々と進められている。トリイ通信施設を抱える読谷村としても、トリイ施設内の基地機能強化が懸念される中、村民からも不安な声が寄せられている。村民の命や暮らし、平和を守る観点から、今の日本の状況、そして沖縄の置かれた状況をどう捉え、今後どう具体的に行動するのか。</p>	
<p>3 「誰一人とり残さない社会の実現」を掲げる読谷村として、すべての障がい者の方々が安心して暮らし、積極的に社会参画できる村づくりへ</p> <p>(1) 令和元年～令和 5 年度までの読谷村のオストメイト(腹部に排泄のためのストーマ [人工肛門・人口膀胱] を造設した人のこと)の数と、年齢別。</p> <p>(2) 今回オストミー協会 (オストメイトが安心して暮らせる社会を目指しているオストメイトによるオストメイトのための障がい者団体。) から村長宛に要望書が提出された。その内容と、村としての今後の対応とは。</p> <p>(3) 災害時の際、障がい者に対するリスクヘッジについてどのような議論や対策を考えているのか。</p> <p>(4) 今後、読谷村で建てられる様々な施設において、視覚障がい者や、車椅子やバギー等を使用する身体障がい者など、当事者を交えた運営委員会などを結成し、当事者目線の設計や設備、また備品選び等もしっかり反映させていくことも必須だと思うが、村としてどのように考えるか。</p>	